



娘家用

13
2931
34



門 へ 13
2931
3

昭和九年
七月六日

黒の古武を懐かしく。心細く茶人共一

癖。古き物を食ふ。小児と意地

濃き。連中婦人を視る。目の形あり。

放蕩家の病を患へ。視は趣向の

あつ。紙妙を撰就。外あり。ヤシヤと

蘭語で賛言を。戯作團の看的海刺

よしゆのむより高き部ねと妻の山ほけふ。
 賣んてと欲すはる言ゆと志すも世設客の
 徳情活業原より忘敵速以の務の勢板
 夕河岸の魚を競ふ舟 舟一 近層娘
 昔の刻成す昔の面を述きまあははあ
 女へのはよふりと志すあまわくくと書付

よう。使をむより居催促机下長眠。
 潤市の軒と社ねづ。昔を採る新をうり
 有はまへ舟 記すあかん

甲午年

盛春

三文舎主人

あどきあき世を非ともむ不そきのいごとく。生ききのある子を
捨てていとい男のこああぐ。くつき冥土へ旅立んはよく。業の
凍き身と又うりぬきを迷ひの園ふひとり。狗のころしめつ。奉じろ
月ごろの辛勞が。つもりくしてふ頃うき立ぬ身のむをりきて。食
るも目くふ不そるものう。面もぬごちもやせがきて。うくくくと
糸をぬじも。とよりせめて表をぬり。ぬりー。檻不金五糸いあん
あると夫うさあぐむ。業よ医者よとさぬく。ふらうをぬり糸を
つけてらうやきくさう。ふつけ。ふごいいと。その情の。あつさと

恩の凍習を。なひつけ。考やと。ばりつ。小養理でも。操でも。いと
可愛のまふと。捨て死まふさやうもあぐ。ゆそのふ。小白粉が
縁まらてくると。このころ。ふらうちあけ。金五糸ふ。まん
て。ぜん合し。あぐ。ば。どらう。ぬらう。と。さ。ぬ。ぐ。ふ。くら。も。と。ま
ま。とり。と。病ひ。い。まん。く。ま。る。ゆ。え。森。て。も。死。て。も。の。不。せ。る。の
こ。改。痛。と。わ。る。ぐ。齒。の。ゆ。と。小。狗。の。や。た。ま。る。ひ。多。ぞ。る。と。金。五。糸
ら。と。め。の。才。あ。ぐ。あ。ん。ま。る。と。ひ。と。か。と。あ。ぐ。ば。日。毎。ぐ。不。仿。ひ。来
る。分。今。月。し。も。例。の。下。ぐ。入。り。あ。り。て。

あへと不まふ小このそまふ金の助はら
あそびととるせまうとあぐとよね金

あくあそ 金持 「どうぞ小こ。よいちうとも仕方うのト しつて小こいんるーと

りあめめ 金持 「ハイやつわりなも あか 金トるで。どうもふさいである。

せん 金持 「さうら。まるとふどりも困つてのど きり 葉ハ毎日せひ出ーての

むら。 ま ちつて春してくんまよト うしちとむけはらたのみ ハイあるら

こ 世い 精出ーてかのみせやて。えやくからりよくしてあげるとぞんト

ま こんど 今度のか い 医者のか ま 葉ハまると小あがり あ いくいそらで。わつらら

どう 金持 由なるどう ま せん 「そりやア い 有りいのら。ど ま 葉ハのこ小

こ い いう。 ま 誰しも ま せんでのむ あ のハ わ へが。 お せん ま 小 ま 精 ま 葉 ま だ ま 也

し い わ い ね い こそ い 小 あ の い 医 い 者 あ ぶ け けて ら 。

ど い ぞ い 。

か い 切 い 共 い ぞ い 。

い い 。

ま い 。

と い 。

ら い 。

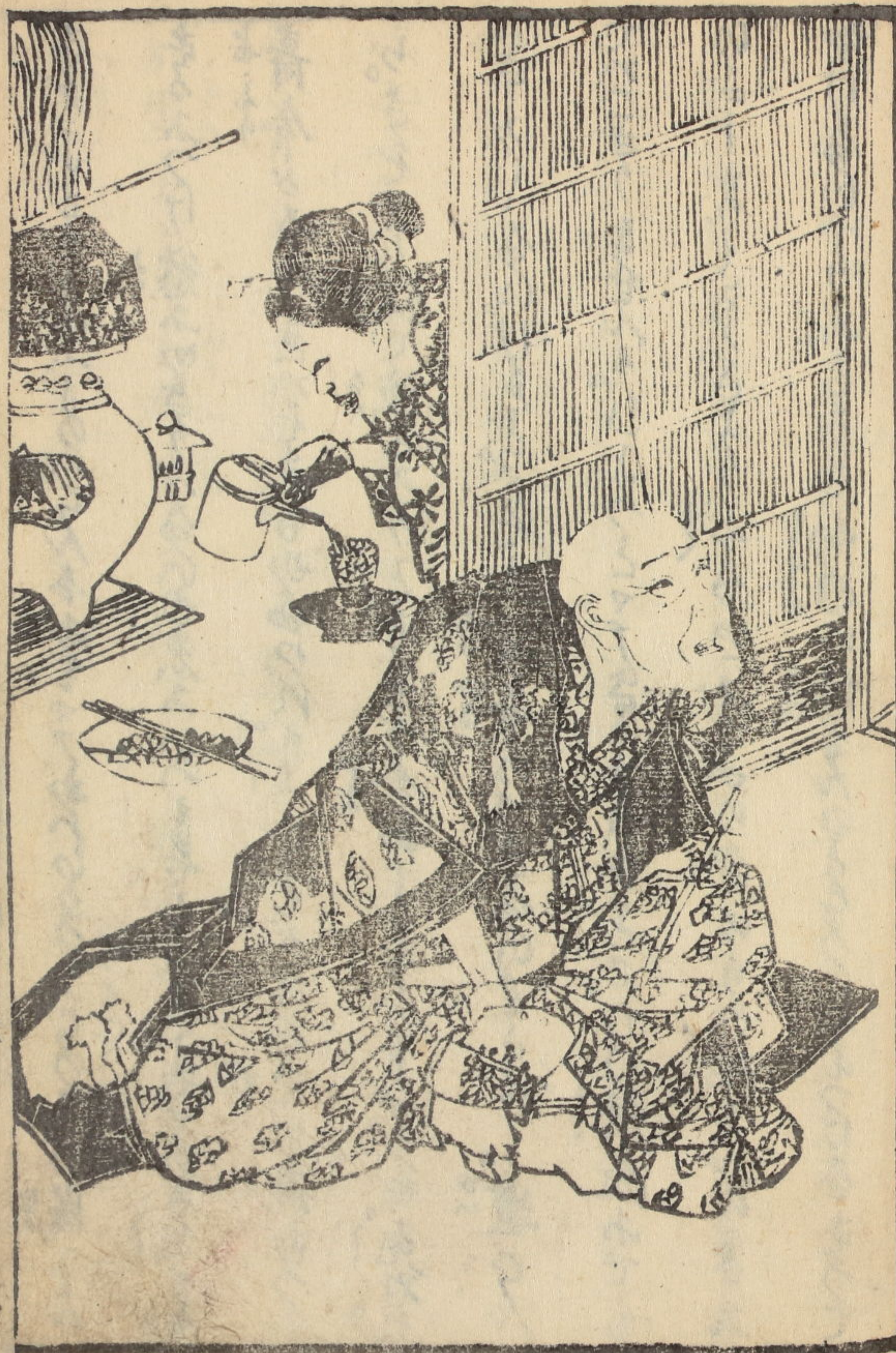
あ い 。

申うでたつてるも苦し。年々もあつたのふかぢ人の申うお世と飲下と先ぬ
 まらうがまうづくと。いもまを痛むのじらう。ちよとこも病まも持が
 あつたのじ。こもでもどうも心ぐうまをぬさ痛むれいごいま
 せんが。おこよ若勞底をせまつたつまうかいとこゆれいさ
 つて。あんまり赤くめんごままう
 ぞお考へて。までれとめんで若勞として。まもあつたへこ
 候もあるりのうす。余計なくらりで余を削る申うあり。ど物
 平生お世のふさをもつと。人の妙くおへくらりとこも

のい。凍寒うまういさ。どんあふまうらつてくまぢわア。史お
 とうも困りきるせまうの考へるいさうをやめて。若勞地
 熱へでも捨てままう。ああはさうと。おあつていさうを
 も女の罪が凍う。若勞一生放まません若勞ありとあう
 さきへ地熱へまあなりおせうト。あまをもひひひひひひ
 世への病ひの系ご。老人らあんどわアあるめへ。是しこの病れで
 死ぬるのうを。ちつとまをりけへて。向島の姉妹のことろへ保養
 あでもびてゑるが。いさうも向島の姉妹あ。久しく色ひ

まの折んうら。このあつらうどうぞしてまありしとぞんぞとありまう。
まの折んうら ねがひ このあつらう どうぞして まありし とぞんぞと ありまう
 光も不定の世のあつらひ。盛りの花もあつらひ常。定めあつらひ世とや。
光も不定の世のあつらひ 盛りの花もあつらひ常 定めあつらひ世とや
 まんうら。あまともあまをぬきとくが牙のうらり。あまのまらあり
まんうら あまともあまをぬきとくが牙のうらり あまのまらあり
 うらばい。あつらひのうらと金の如の類とつらる目あつらひと。袖あつらひ
うらばい あつらひのうらと金の如の類とつらる目あつらひと 袖あつらひ
 まくはのうらふ。まぐとあつらひとあつらひふ。ふんふなりふ金とあつらひのびあ
まくはのうらふ まぐとあつらひとあつらひふ ふんふなりふ金とあつらひのびあ
 びつてふとの款とつらとと。うらつらと。あつらひちやんみふ位のご工。
びつてふとの款とつらとと うらつらと あつらひちやんみふ位のご工
 かつらちやんか。あつらひちやんか。あつらひちやんか。あつらひちやんか。
かつらちやんか あつらひちやんか あつらひちやんか あつらひちやんか
 まりうらひてあつらひのびて。下あつらひあまうてせうあつらひの物もまうらとくまうら
まりうらひてあつらひのびて 下あつらひあまうてせうあつらひの物もまうらとくまうら

ある。金五希。由男むふにふいさあつらひひまきさうせとふ三の物を
ある 金五希 由男むふにふいさあつらひひまきさうせとふ三の物を
 おしなうら。せまきせのうらうら。よりあつらひあつらひあつらひあつらひ。
おしなうら せまきせのうらうら よりあつらひあつらひあつらひあつらひ
 のまもあつらひ。あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ。
のまもあつらひ あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ
 まもあつらひ。あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ。
まもあつらひ あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ
 ぐらうら。あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ。
ぐらうら あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ
 のまもあつらひ。あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ。
のまもあつらひ あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ
 まもあつらひ。あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ。
まもあつらひ あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ
 目那あつらひ。あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ。
目那あつらひ あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ



あせ子どもこのふのへらんを中もアあいのうらう。この子の成トん
まるおつけ。慈ふあまういあいのあふいつまもゆらうやであるをでも
壽命がむけまのそまもあるが。アあまが目山目を森あつこ
ら。さぞアア。以て使どううと。そまが今あしんくそまやを。死ねる
はさうくあはけまど。そまも長命のまきあひまこく。遺らん
でいさうもせんら。ひょうとアアさうさるままで。この後死あでも
スカーまいこく。ひょうがああひの子の身の人へ。地あんのまあ
あけあひかうふ。とまを向傍の神まんのところへ。ああづけままつて

くまのま。とそも日びを育つこの子。まは嫁終ああこのは
家督どうまもくともありまはまい。まは子あやねばあぬ
生さき。今やあんまう他人の中で。ひああらまこり苦勞とまをこ
ね。根がひまのけまもあ。まりあふでもありませうう。外へや
つてくまさいまけん。市如才もできりまんまい。六つう七つあもあ
まう。まひまひや読まも。教へてまつてくまさいま。又二つあ
へか雪えんと。市史婦中こくかろく。なまろて。市祖又えんま
り市史殿へも。市苦勞とけやまねずりあ。市孝けあるまうて

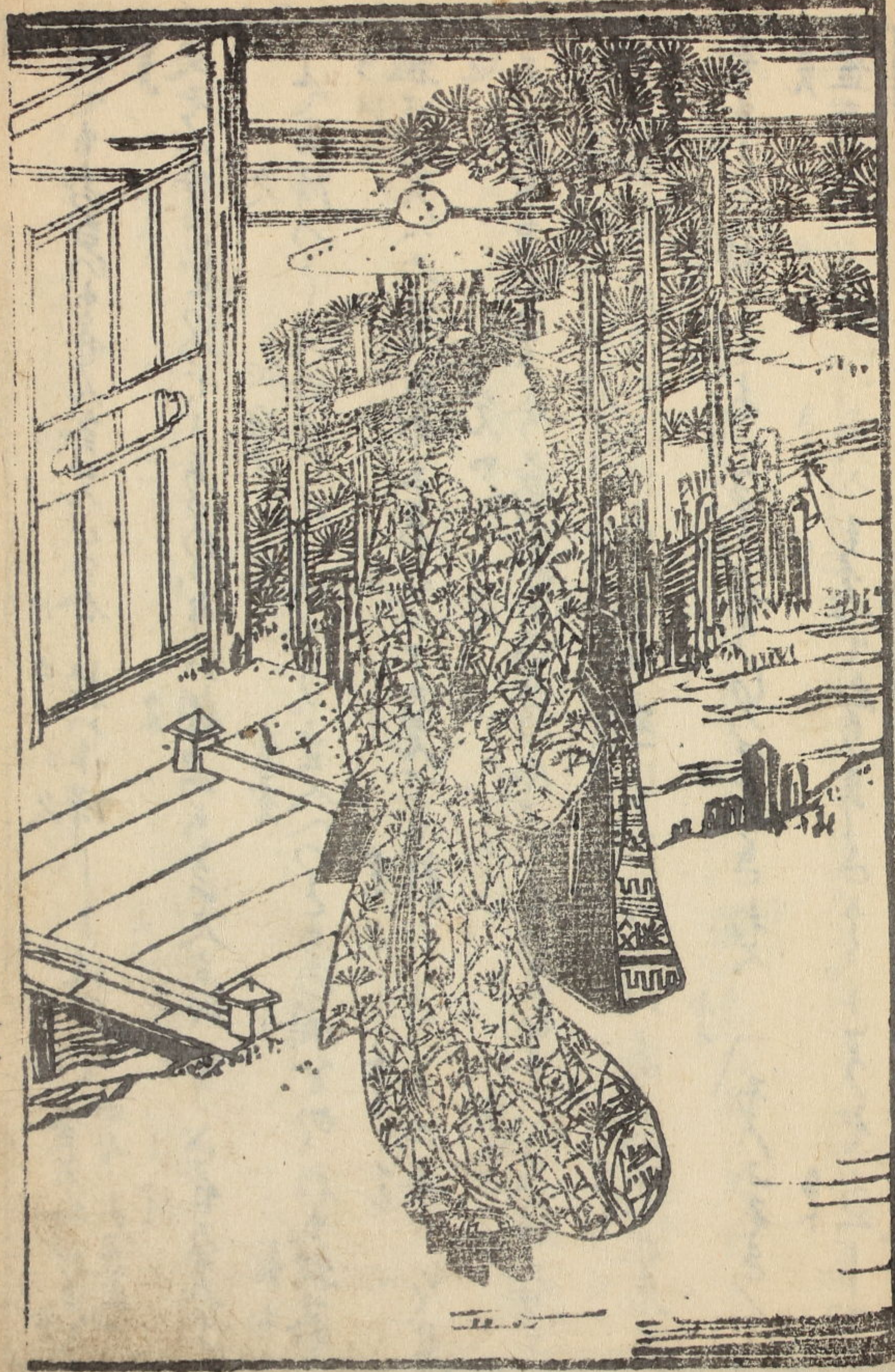
くちまひのまをよび。こころはモウとひかりなり。仏妻供養せいで
くちまひより。思ひ残さるものあり。うづきまん。あめふり子ども
の時ときかみかみぐりして。ひとくさあしは赤恩をうけましことか。
この世の縁が落いで。この子ができても未だけて保ふおま
まの身の因果いんぐそ何のむいひでもあらずふ。後生のことをいしを
りくさひあひひのくへして。わくへらぬことできり。まんがきもやつ
たり女めの患あはれ病びょうこのうへのか情なさけハ。目こころのくさひあふこのか
寺へどうぞやつてささいまし。そふしあるまの世へびておそをふ
おしまませうと。ちろみかやもできいままぬ。今の身かてはそまが赤
し。が赤しあかままうてくささいまし。又もるどとりんとあか
そんむつまうねととりよ。あんまりくさくあまう。ちろと丸の赤
せこのよわね入る。この一日二日ハるんでもあまの類なへえさると。あまう
おひるまわらうりゆく。あまませとらう。まあぐらうくするや。ごごら
むこと考あはへ立たてむきでもね人ひととひわねくくろんハまをまろつあり
りつぎいせ。か雪ゆきふひどくまがひをまろく。それでえんあ病びょうが
るのどかり。あの子こか雪ゆきと祝あはれ言ことこのハまろつてあるや。祖おぢい又またえんや

親父のれいやもろのあざう。何れも今さうおめえを捨てるかもう一又
 金坊がてきさう。采翹采花をさきしとねく。そんなふ不自中
 もさきめく。目のげ老でもあんでも。共ふらうさかろくねけりや
 りよアねへ。候ふるぬのケ浮世とハ思ふえうさう。其れ
 と兼ねうてふふも時若ごと。業と大ききりて養生していなけ
 るや。若の世界がくさくさるものる。あんも養生するとりりあ
 や。まがうとらけ。く雀飛く。と
小三のころをさかきとわるとをのた
 ゆゆいさうとてこのいひてまふか
 けもやのま。この目ハ金五布もねとる。小この身があんト
 りとて降さうもろりく。く。看病がてうらふ酒を飲ぶまう
 志めりぢりあるとこのくをさうて。兼更てこまぐりり外なる。あくる
 ありと金五布ハ早、靴は使の身あるべ。さう降らんと言がて
 上るふ。小このはまろのつとあや。まご目覚まねらみこ小
金や
あてうをさあひ子よのむびあ
そをささうてあやうさう
 一をアやふどもとりあのハまご小
 むのどのう。坊やの志めづることあてア目をさかしくやつ
 さやうでさかいまろ。さうりしとせもかやうさんハ。お屋敷をさかいまろ
 ろ。おさ

親父のれいやもろのあざう。何れも今さうおめえを捨てるかもう一又
 金坊がてきさう。采翹采花をさきしとねく。そんなふ不自中
 もさきめく。目のげ老でもあんでも。共ふらうさかろくねけりや
 りよアねへ。候ふるぬのケ浮世とハ思ふえうさう。其れ
 と兼ねうてふふも時若ごと。業と大ききりて養生していなけ
 るや。若の世界がくさくさるものる。あんも養生するとりりあ
 や。まがうとらけ。く雀飛く。と
小三のころをさかきとわるとをのた
 ゆゆいさうとてこのいひてまふか
 けもやのま。この目ハ金五布もねとる。小この身があんト
 りとて降さうもろりく。く。看病がてうらふ酒を飲ぶまう
 志めりぢりあるとこのくをさうて。兼更てこまぐりり外なる。あくる
 ありと金五布ハ早、靴は使の身あるべ。さう降らんと言がて
 上るふ。小このはまろのつとあや。まご目覚まねらみこ小
金や
あてうをさあひ子よのむびあ
そをささうてあやうさう
 一をアやふどもとりあのハまご小
 むのどのう。坊やの志めづることあてア目をさかしくやつ
 さやうでさかいまろ。さうりしとせもかやうさんハ。お屋敷をさかいまろ
 ろ。おさ

ござりません子^{いんか}。且^{いんか}那^{いんか}えん^{いんか}。あるつらさぞモウホ昔^きろく^きでござい
ませうが。中^{ちゆう}とふかこまんあつことございませう子^{いんか}。金^{かね}一^{いち}ぞう^{ぞう}と。実^{まこと}ホ
昔^き勞^{らう}であつたれ。とこふるんぞろ^きふか^きのこをろくろく^きひつ^{ひつ}も
あんどらうまであひひり^{あひん}わへ^{あひん}よ。かまの勤^{きん}め^めの力^{ちから}のこと^{こと}也^{なり}。毎^{まい}あつ^{あつ}附^{つき}
どろい^いふついても飛^いら^らま^まを^を。み^みん^んで^でも^もて^て又^{また}ひ^ひり^りが^がこの^{この}こ^こう^うも^もい
が^がん^んと^とつ^つけて^{けて}や^やつて^てく^くん^んみ^みま^まと^とい^いふ^ふの^のせ^せめ^めの^のご^ごう^う。ひ^ひと^とん
み^みで^でも^もま^まり^りへ^へと^と。そ^そも^もぞ^ぞ一^{いち}た^たの^の心^{こころ}配^{はい}と^と。い^いひ^ひま^まか^かる^る金^{かね}の^の
金^{かね}を^をろ^ろう^うや^や。あ^あつ^つろ^ろう^うの^のあ^あん^んま^まり^り世^せ係^{けい}と^とや^やる^るせ^せま^まお

わこま^ましく^くして^てあ^ある^るの^のご^ごう^う。又^{また}附^{つき}目^めあ^あつ^つ附^{つき}目^めか^かま^ま差^さを^をと^とん^んと^と買^かひ^ひで^でま^まて
や^やり^りま^ませ^せう^うと^と。い^いひ^ひま^まか^かる^る金^{かね}の^の
う^うま^まの^のお^お供^けは^は。附^{つき}目^めあ^あつ^つか^かも^もあ^あん^んま^まり^りま^まる^る。坊^{ぼく}や^やと^とる
ち^ちく^くま^まの^のご^ごう^う。坊^{ぼく}ハ^ハ利^りト^トの^のご^ごう^う。あ^あつ^つろ^ろう^うと^とま^まる^る
の^のま^まを^をん^んま^まる^るか^から^らま^まん^んハ^ハマ^マ帰^きり^りま^まる^る。あ^あつ^つろ^ろう^うハ^ハま^まの^の目^めを^を
さ^さね^ね入^いり^りま^まる^るづ^づろ^ろう^うと^とま^まる^る。坊^{ぼく}ハ^ハモ^モウ^ウあ^あつ^つろ^ろう^うの^の目^めを^を
み^みま^まる^るま^まる^る。今^{いま}自^じハ^ハ市^{いち}番^{ばん}で^であ^あつ^つろ^ろう^うと^とま^まる^る。坊^{ぼく}ハ^ハモ^モウ^ウあ^あつ^つろ^ろう^うと^と
清^{きよ}く^くま^まる^るり^りま^まる^るん^んぞ^ぞ利^りで^でも^もあ^あつ^つろ^ろう^うの^の目^めを^をま^まる^る。坊^{ぼく}ハ^ハモ^モウ^ウあ^あつ^つろ^ろう^うと^とま^まる^る
坊^{ぼく}ハ^ハモ^モウ^ウあ^あつ^つろ^ろう^うと^とま^まる^るり^りま^まる^る。坊^{ぼく}ハ^ハモ^モウ^ウあ^あつ^つろ^ろう^うと^とま^まる^る



双鈴精也

負
見
押
芳
昔

七

あつたも真ま宿たづのま使つかうき身みをあのまをしひ。と其その壯さう年ねんの
と多たとバ。びびとひるりとも支し度どくく。嫁よめい入いらせやらんと深ん切せきの情
あり。奪うばくのひけしとども。真ま宿たづのま今いまさら。縁えん暮くて。栄耀やうをのぞむはも
まく。正勅とくの身あく年ねんえくづい若わか勞らうもあままさくとバとえ
ふしやり。不ふ自じ中ちゆうのらうしとまさるとも。世よをわかずやらふ送らんと。よもなと
あまらくももた。あまらくももとの海うみ松まつ門かどふ入りて。隆りゅう乘まとまりめ亡むし脱だつ
の。誤ごの世ともらうまらんと。生せい海かいの初ひまりとて。いひまらうみのぞこ
ろゆん。本ほん家けのらもも七しちのか標めの法じようろうるをふうく感して。本とも
まうと。別べつ莊じようとまの本宿たづ不ふづり。その危の中なか不ふ危かいを遠らせ。念ねん佛ぶつ
えんとりふ号ごうとつけて。仏ぶつ真まとりとみむ補助すけとり。日ひ々ささの教養ぎやうへつき
と。毎まいふかりり。不ふ自じ中ちゆうくくくくませけさバ。真ま宿たづのま日ひじようのまをも
かるひその恩おん天てんの厚きをようくさび。浮うき世よとのごと一いちか地ふて。後ごと
まきし。切きり危とるり。名なと紫雲しゆんとあるとめ。月つきて不彼あ危かいふて。百ひゃく万まん遍べん
いとくろろ。仏ぶつ不ふ仕しゆちとの身みの業とり。水みづいとぬけてらうらならひいとく
しゆらう。殊しゆ勝しょうのらのまりらり。須す由ゆの中のまとバ。在あるま面めん不ふ持ぢ授じゆ女にょ弟ていたを
こ。ふちらら。秋あき叶かつままど。ままらんぐ。秋叶あきの吸くちららまら。けん雲くもの法佛ぶつ不ふ

まの^{おひげ}毛んと^{おま}庭下^{てあり}を^{てあり}とまきかりしちて^{てあり}花と^{てあり}子^{てあり}折^{てあり}て^{てあり}あ^{てあり}り^{てあり}う^{てあり}う^{てあり}

一^{あつご}あ^{そと}り^{いと}と^{いと}枝^{いと}折^{いと}す^{いと}の^{いと}糸^{いと}糸^{いと}人^{いと}か^{いと}と^{いと}さ^{いと}る^{いと}ゆ^{いと}え^{いと}ひ^{いと}と^{いと}あ^{いと}り^{いと}ま^{いと}り^{いと}ま^{いと}り^{いと}の^{いと}

姉^あさん^あご^あ子^あ。く^あマ^あか^あ出^あご^あお^あ入^あ。サ^あ乃^あく^あこ^あろ^あち^あへ^あか^あよ^あり^あナ^あ。ヤ^あレ^あく^あよ^あく^あ

か^{いせ}出^{いせ}ご^{いせ}ト^{いせ}き^{いせ}奉^{いせ}り^{いせ}ご^{いせ}い^{いせ}ゆ^{いせ}え^{いせ}よ^{いせ}と^{いせ}大^{いせ}う^{いせ}ご^{いせ}る^{いせ}う^{いせ}び^{いせ}。小^{いせ}ご^{いせ}の^{いせ}姉^{いせ}の^{いせ}こ^{いせ}を^{いせ}ま^{いせ}る^{いせ}

顔^{うた}と^{せむう}え^あて^あり^あき^あー^あさ^あの^あか^あざ^あり^あり^あ。乳^あ母^あの^あ宵^あ中^あの^あ屑^あま^あと^ああ^ある^あ。金^あの^あ分^あと^あ

抱^あき^ああ^あり^あ。よ^あと^あひ^あき^あて^あ産^あし^あき^あへ^あ通^あり^あ。か^あき^あご^あま^あり^あの^ああ^あい^あさ^あら^あま^あと^あ葉^あ

ヤ^あレ^あく^あま^あと^あお^あ久^あり^あご^あり^あご^あ子^あ。ヲ^あヤ^あレ^あは^あ是^あ用^あ小^あか^ああ^ある^あう^あよ^あの^あ小^あま^あさ^あ方^あの^あふ^あ

か^{こや}も^{こや}あ^{こや}ま^{こや}で^{こや}。ち^{こや}ん^{こや}ふ^{こや}の^{こや}あ^{こや}い^{こや}ご^{こや}人^{こや}と^{こや}あ^{こや}げ^{こや}ご^{こや}時^{こや}。か^{こや}ま^{こや}入^{こや}が^{こや}あ^{こや}り^{こや}と^{こや}ま^{こや}き^{こや}ご^{こや}

コ^あの^あい^あと^あが^あ返^ある^あふ^あ書^あて^ああ^あら^あう^あご^あら^あう^あ。ど^あう^あの^あゆ^あり^あま^あり^あと^あい^あり^あそ^あ

モ^あウ^あ葉^あド^あら^あう^あう^あ。ち^あよ^あう^あと^あ見^あ舞^あふ^あま^ああ^あら^あう^あと^ああ^あり^あて^ああ^あら^あう^あ

あ^あい^あく^あら^あう^あも^あ時^あ候^あふ^ああ^あら^あう^あて^あ。つ^あら^あく^あな^あま^あま^あを^あ出^あし^あて^ああ^あら^あう^あ

ま^あご^あか^あま^あ入^あも^あ顔^あの^あ色^あも^あコ^あの^あい^あダ^あ。葉^あ分^あい^あご^あん^あぐ^あよ^あい^あわ^あり^あう^あエ^あそ^あ

し^あて^あ舞^あご^あも^あか^あ出^あの^あう^あエ^あ。一^あい^あエ^ああ^あら^あい^あて^ああ^あら^あう^あし^あと^あい^あん^あふ^あん^あけ^あ

後^あが^あも^あち^あの^あり^あも^あく^あも^あご^あの^あま^あを^あん^あが^あ。只^あか^あま^あご^あた^あら^あり^あて^あご^あい^あま^あた^あ

の^あき^あ。こ^あご^あご^あご^あの^あモ^あウ^あよ^あま^あ入^あふ^あか^あま^あけ^あて^あは^あを^あ沙^あ汰^あな^あら^あう^あの^あい^あご^あま^あた^あ

う^あ。あ^あら^あう^あこの^あか^ああ^あん^あの^あの^あか^あら^あら^あう^あこの^あと^あぞ^あん^あド^あま^あを^あん^あで^あか^あを^あね^あ

中もいへません。二十廿二のいんんの常分の。モウさうさう
と心よいヨ。いんん金布ううくか出ど子。ちうくとんあいのうちふ大人さ
か成どぞ。目つまやドリとびかとうきんお生どねん。金布うや。と
ついでかたさんお。ハイ津城さんよりトか穢を去るよ。一アイくう
トき。か穢がでさきまふぞ利トものどぞ。サアくかたさんお抱子をか
うまのめを津城をまうく。うまよくりよとをかまどぞ可愛
ね入ト。金のうとひさのうおいごき。乳母アか出う。ハイ去るくか
うやでよの子。ハイありがうまを。まよとふお不沙汰さなを

いへません。こちか坊さんかううういんん。か抱おようご
ちも子。このふもかまう人の丹精で。まよとふやうくね入ト。子
いんん氏よりあつてうとやら。はまんともどつぞ面例えてやつて
かくせ。一トエモウか利トみかまをつきでどいんん。目く
かたへぬけまきやうで。よその子供流よりお命とまうくまあうま
のき。いんんおとごうの子。子。金布うや。かとうきんお津城さんよいう
一アイかとうちやんかおあふ。か津内お果ヨ。一アか津内おあま
番でかとうきんか屋しきう。よくヨるねんか常や。お養花を早く

泉

七

はやりなふ菓子と向島で賣す人のとさうなり存トません子工
そふとモレか姉さんエ。こまは池田で初めまーとウエ「アイ遊さ
この秋果たるの裏門のまりで。去りへ出る乃サ。松花園といふは
ちつどろ賣物もごうとんごうとまの子工「ハさわりでございませ
美味いさういませう。坊が大收びでえといふさまを「そまよつ
ね金ぶらうとんとおだも乳母へはの方さう今ふか着が来るこ
トドあげのヨ「イエは酒さう又このおまきと飲るハ結構ござい
ます。そしてはあ舞でございませう。かついおやおまをなごふ

ようろうございませう子工。さういふ今ふたなり出ーませう「おまのサの
処の本座るぞでも。人さつふさる所毎ふいつでも哭てまいとあつて
そよさ。ごご由判判がよつとまやつて来るのサ「あんふ向島白今
トヤアおふるりませうこまエ「このおまかま入梅松の七種
ございませう見おの人が物方ヨ。そまは蓮華寺の主人さるの
お庭がよく出来さう。ごんぐらちも賑わらるるハ「ハさわり下
ひまひまませう。さうもせやまをくませう。坊をつとて梅松
の七種さう蓮華寺の主人さるへお参りませう。今年ハ具取

辰巳目二

三

憂^{うきん}苦^く勞^{らう}をんの困^{こん}保^ぼでびざりませうト

まとうるはふらむ世にあら。雲もるふともくむねせまり

其^{その}人のうらみの言^{ことば}のうらみ。うらみふらむにのみかま入^{いれ}の憊^{いは}言^{ことば}世^よも在^あて

てそ人^{ひと}の死^し。金^{かね}ぶらうとりふ実^{じつ}と伴^{とも}んで。苦^く勞^{らう}はあらうら又^{また}保^ぼく。

且^{かつ}那^なも人^{ひと}ふかまをさるまをさうて。發^{はつ}明^{めい}みかうて。由^ゆ意^いはもあはなをさ

くそ安^{あん}楽^{らく}は子^こ。かまうらひもあうい。安^{あん}も。のうらむもあはなをさ

あらぬとの世^よ捨^{すて}人^{ひと}が。おんの本^{ほん}意^いであるものうら。是^{こゝろ}も安^{あん}楽^{らく}を

固^{かた}縁^{えん}とさうて。又^{また}安^{あん}楽^{らく}。姉^{あね}妹^{いもうと}二人^{ふたり}が同^{どう}一^{いつ}中^{ちゆう}ふ。保^ぼせを

捨^{すて}ては亡^なび。喜^が悦^{えつ}のうらむとあはなをさうら。おのうらむて。さうて

不^ふ孝^{こう}の罪^{つみ}甘^{あま}てかま入^{いれ}人^{ひと}の世^よをさうて。おれが。おん

親^{おや}めうらむとさうて。かま入^{いれ}も。さうて。おれが。おん

金^{かね}ぶらう。且^{かつ}那^なも。初^{はつ}苦^く大^{だい}切^{けつ}かりき。苦^く勞^{らう}はもあはなをさうて

末^{まへ}の業^{ごう}へせう。おれが。おん。おれが。おん。おれが。おん

ことをさうて。おれが。おん。おれが。おん。おれが。おん

らひみでもなるうらむもあはなをさうて。おれが。おん

さけておれが。おん。おれが。おん。おれが。おん

杖^{つゑ}をぬく。おれが。おん。おれが。おん。おれが。おん

つゞき尙や金五郎が小こせ見えかぎり。か雪ふらうをとりくせし
ゆ名物とるしめ業をつつひて。そのまづつひの出しうと
とせ業一かま入のふさをさるふつけ。病ひの根がききなり。とよも
つゞくへ業トらる上。疾や血の乃てふさぐのまゝ業トらるこの
りもるのが、何やいひとくれさしあり。かのつづきのまづつひと
えさひひが目うまうまい。名業ふ落ひいまでもあつて一人
公旁しやると。ろくみなとて考へ付き。昔つふらうしとまら
中うなつまゝぬとと考へ出まらうと。いふく病ひのまらるとも。

はれりうへまくるのめさ。他人の格別真男のつと。世を
しおといひる。昔つるところある。かま入の物を隠さふ
をひしてせせてかろまらう。女の智恵の浅えうでもそこは
とも法念づく。へびてぬでこそ其の姉妹、わしを啼がまらひ
つけ。あえのりるいや何うふつけ。かま入のまらふあつ。後
生をたふさまらげと。お入とんまのあな。さふ浮世をたふ
やつらり昔つるのやままるひなるのい子ト
さふ姉のあえのありや。さふ。よこは終渡ふくま。物もなり

きくわうりみて。頼もえあびをあさう。が。神もよき。真より
 ん。真の妹と。ながりありて。さきと。お。あ。ま。つ。て。
 返くのか。とを。う。き。い。み。つ。け。難。い。み。つ。け。なん。で。あ。ま。こ。を
 へ。で。ま。せ。う。この世も杖とも。根とも。ちうう。お。あ。り。あ。ま。こ。か
 ひ。と。り。浮世も人。い。ほ。い。あ。ま。こ。考。へ。て。え。る。と。か。ま。入。ん。や。こ。こ
 う。不。ど。る。因。果。者。ハ。あ。ん。ま。り。あ。ま。い。あ。り。ま。は。い。ま。い。ま。と。あ。る
 と。親。お。た。る。と。姉。妹。二。人。揃。い。も。そ。ろ。つ。て。故。々。と。う。そ。を。お。た。る
 ぐ。と。あ。り。ぬ。東。へ。さ。ま。よ。ひ。あ。て。う。き。川。竹。の。あ。る。と。ま。ま。あ。る。と。

苦。勞。ふ。ら。う。せ。あ。ぬ。い。と。あ。げ。ふ。あ。ま。こ。の。仍。ま。ま。こ。う。り。の。か
 人。お。た。る。と。別。是。る。ま。ら。う。と。ゆ。え。か。着。い。た。ら。う。お。世。を。捨。て
 附。會。あ。る。ぬ。仏。の。た。と。ま。い。ひ。き。久。く。う。ら。ひ。恩。と。情。を。捨
 かね。一。浮。世。の。義。理。不。甘。あ。り。て。日。陰。も。嘆。一。仇。花。の。あ。り
 申。く。身。い。と。わ。ね。ど。ま。ま。ご。松。子。も。め。を。人。ふ。て。育。て。あ。げ。ぬ。ら
 一。つ。の。れ。び。り。紫。へ。その。る。せ。い。子。が。あ。り。と。ハ。エ。ト。ら。う。ろ。づ。き
 片。ア。その。れ。び。り。と。ハ。金。び。り。が。る。の。と。か。く。は。日。ち。う。病。身
 由。急。ゆ。て。も。言。て。も。苦。勞。ふ。ら。う。ど。う。ぞ。丈。丈。不。育。い。と。

長...

めい

かりいまでも子供こどもの身み。あふがた給ちの被かがたいと

そまいく目めうみい目めえいるい不ふどのおおえいくいづいり。ねいづいういごいと

二にどおにどへへ食たむまぬまやまうまふまをまつまけて。ごごままうまうませまばまごまん

せせももううくくいいぬぬくくせせしてし泣なまなんなうう。ツツイイ可可愛愛ささふふひひううささままて

姿までまをまええよりよ早はではままううと。ねねづづるるかか葉は子こををああててががひ

ままままとと又また食たむまむまぎぎててハハかか抜ぬがが痛いたいい痛いたいいくくのの食た傷やのの食た傷や

出でれれででいいろろももああららううととハハ垂たららんん一い餅もちひひよよいいろろままままごごのの小こ

不ふ便べんががいいややままううててよよそそのの丈ぢやう丈ぢやうのの子こ供どもののややううふふおお控かひももししと

つつよよくくももああららううむむ見みんんななくくそそごごちちがが傍そば去さしてしてもも小こののししぬぬ不ふどの

いいろろくく老らうふふりりままいいととせせんんううししてて世よびびづづ丈ぢやう丈ぢやうふふ育いくつつややう

どどととななりりんんがが且かつ那なハハ又また形かたち姿すがたがが口くちのの育いくててぐぐららがが口くちのの育いく

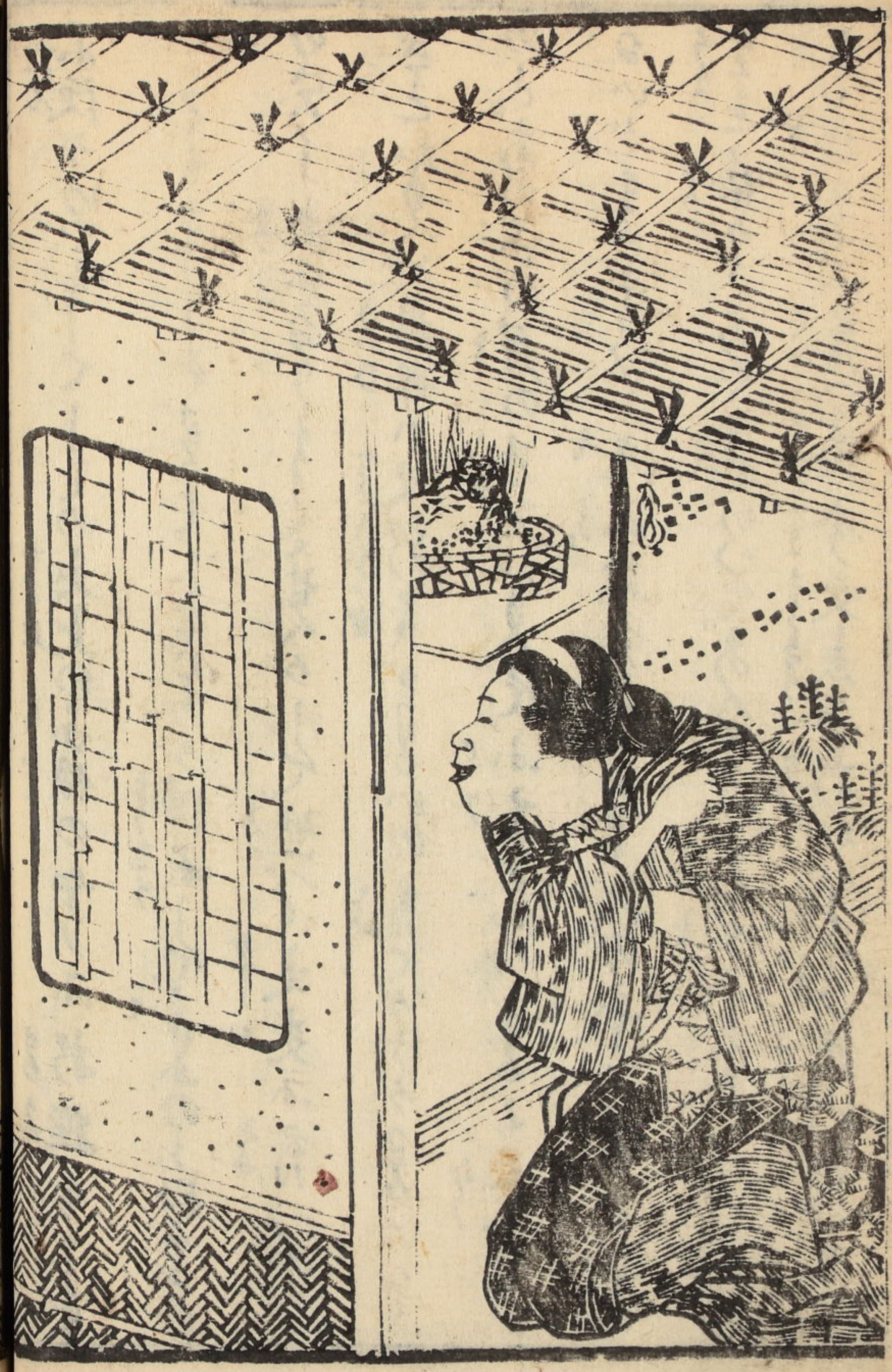
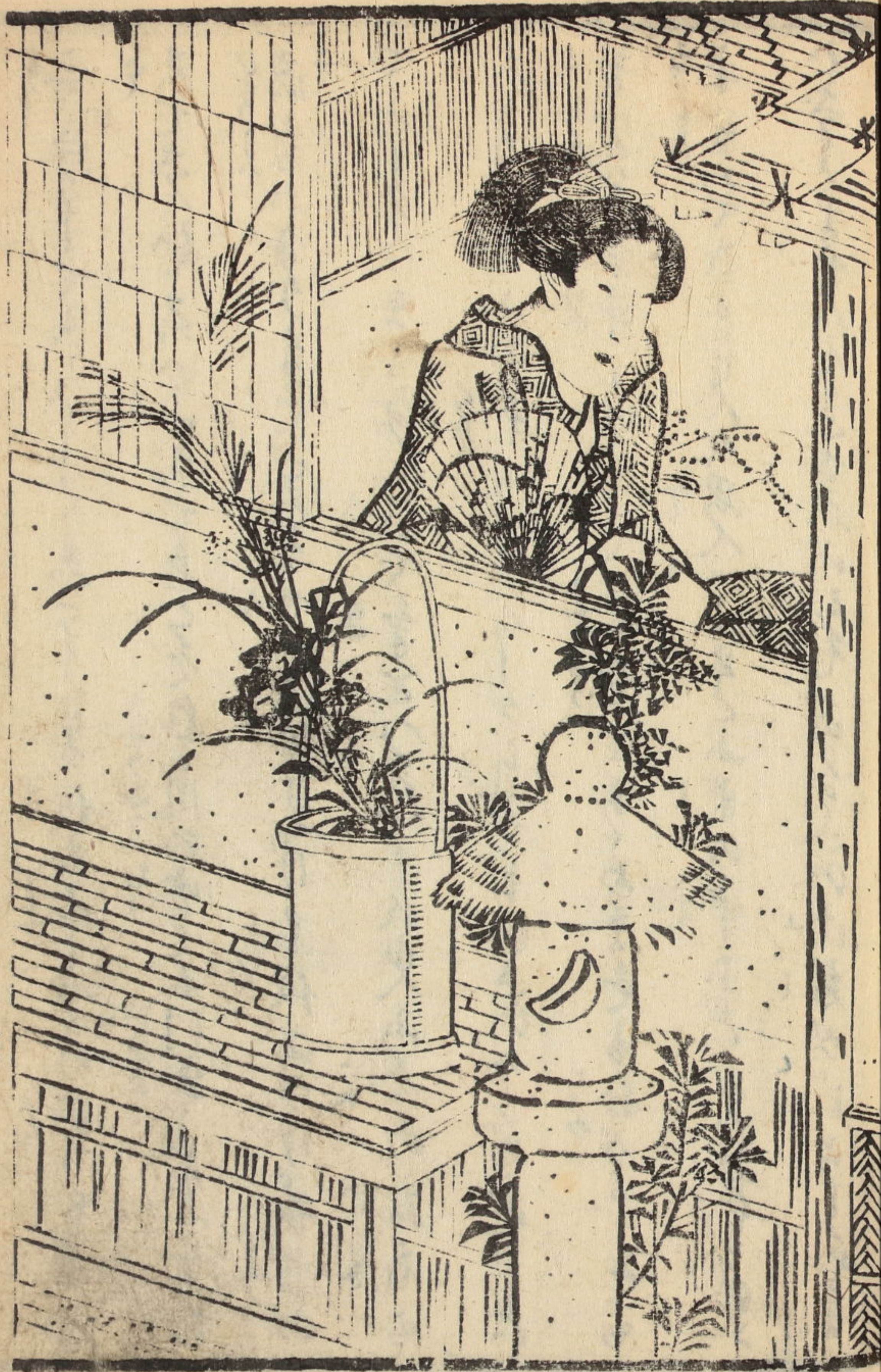
ののととああのの子このの身みののああををあありりてて小こままををあありりししちちもも無む理りででハ

ああいいががままごごややううくく丸まる三さん歳さいふふるるううららううぬぬののふふととららううそそごごま

生うままはは落おちううちちややあありりててああんんままううたたららずずふふ表あはををぎぎてていいままりりと

ままううくく小こままのの葉は今いま更さらふふおおかかいいくくららうう。法はふ附つああくくままを

娘月八



おつりてきびくきつる日侯もあしづいぬりまを
あでさひよふいふがそとそを怒風の世でも引出しん
病身なるりまをどろろ可きりみつけ不夜ふつけ
やまもるひまもろくれでまをつひいすん更ふ今の病も
かろりまこのまもどろろぐれぐれあひさいぐれせま
苦勞を余計小しててま余をちめまをもむぐるとそ
若生はてきませんが男入バまそと小世の中不どろろさ
とびりませんそまをぬらそあるこのは別がかうくやま

しうどざりまんと
そふりバそろせもあろろけとともそまはるんの一
世の中ふ子室とえいふのを大切る金銭よりも子もどま
つこ室はるいと誰しもまんと世の常養子と持こ別小苦勞
の絶ぬハかま入をかりせハあるまへーそんな世るの
ろ貴でも下賤でも子もむろさくハ親の常マアスる
ない捨の上のむろろ痛ふ世をある食ふや食つぞの
でさ入子を大切ふ可愛がり。勝る目とねま小育てあげても

俵目入

七

できき ことく 出来ぬを食ハ乞食。上久と見えまは方ちりづまぐるのうら。貞まこと一のりのと
 男おとこひやまば。多さむい目めもせむ不ふ自由じゆう多く。くくくくわのハ安あん楽らくさ子
 飲のむふおまうのるの世よの中ちゆうゆゑ。十じゅう分ぶんも不足ふそくふもよハ人
 情じやうどうくまうこもるいダ。かま入いれるんぞも日ひづげの身みで候まふるぬ
 を苦くふおしどが。満まんまバ飲のむるといふいなり。十じゅう分ぶんも不足ふそくふことないハ。
 人の所ところが金きん銀ぎんが。あり餘あまるゐどの大おほ衆しゆうハ子こを飲のむぐるやど
 子こが出来できむ。美びん人びんの子こは心こころを。うくやむといふとどう。金きん銀ぎん
 づくハも換かりぬハ。金きん銀ぎんがうといふアノ大おほ衆しゆうの子こは心こころを。うくやむといふとどう。金きん銀ぎん
 付つで人の考くわうるない苦く勞らうをまらも。親おやとまり子ことるる不ふどの因いん縁えん
 づくごとあまうめて。面めん例れいをえてとててまうてハ。親おやの役やく目めを
 まぬといふハ。サアそまどうおーのりどく。業あへして飲のむつ
 てハ。かま入いれの身みハも壽じゆう命めいの毒どく。彼あつ子この心こころもあつるまう。親おやと引ひ
 きて飲のむつ。小せう身みを厭いとふのが肝かん心しん。世よハ亦またも竹たけ本もともるの
 目めが。牙がをうくやまばと。金きん銀ぎんがの心こころを。神かみ仏ぶつの形かたちつて
 人ひとさるるが。かま入いれの子こハ。女めの心こころの飲のむぬといふハ。志こころが。子こが
 牙がでありまう。且ま那なの心こころの子こ助すけけ。牙がを。世よさぎといふハ。

徳とく

来さううハカふるつううもさうさるのハ。そりやアいひいても志

まさるひらうくくく。こひ長麻ハやめて。金ぶらうをつきて。梅屋しん

でもゆて。ちつと乳をうーせしてお出ト。多くはあちりうう金の分も

母ふいごうま度者へあまは。は雲ハ抱きう愛しうして。つぎ子の

よく不可免く。是よりこまうく。のろともふ。梅屋しんへ中んとて。

内ふハ下女と下男と。残して小云とは雲ハ連立。花をうきより

蓮華寺の。丈作へ指不出。ゆか。程うくして立降。雲ハ種く

の貞味ととりの人。こまうく。お夕陽をまむ。孫をふ附と移しけし

秋の日のたぬ西ふかひあき。入相ちうく。なりーん。はこいあふん

平りー今日ハるーがうで。ついかるく。あうくと男のう。入おあふ

ちうー。あうとこ。保表い。うま。日の着るおもれ。うら。うら

ちあひと。うり。あうして。大ま。あうく。の。乳。あま。あま

よひるう。そり。あうく。降。うら。うら。あう。あま。あま

今日ハ。あま。あう。うら。あま。あう。あま。あま

あう。あま。あう。あま。あう。あま。あま

あう。あま。あう。あま。あう。あま。あま

あう。あま。あう。あま。あう。あま。あま

るいり。森おがなりふりうらうらと。男の上をひのびせついで。さる
 物おねをさうしそむかよすま。いさうもへり。いさうまを。いさよ
 かいり
 か糸強じううどりぞして。泊つてまわう。いさとぞん下まはが。今糸
 こころが。西るまのあとい。びよう。と旦那が。た出る。おるとまよてさ
 ませう。どろも。あう。だ。あり。ま。せ。ま。い。い。かん。ふ。ま。り。お。ね。人。見。那
 いき
 の市搦いきだんとそとわて。おる。い。一ト。喰でも。使。あ。あ。う。ない。い。と。ご。ね。人
 そんる。い。船あねで。か。の。へ。り。な。ま。か。い。ゆ。ま。て。い。ひ。る。う。ら。う。か。う。か。う。等。船。の。ち
 が。よ。ろ。ろ。う。う。い。下。が。こ。ろ。う。い。ふ。り。な。び。ま。ま。ん。む。の。い。ん。あ。い。て。ま。の。あ。い。ら。う。い。

まいり。い。下。ち。ま。で。も。か。ま。い。い。さ。う。う。い。い。せ。選。で。い。び。あ。る。い。い。い
 う。つ。新うで。ま。り。う。ぐ。波。痛なの。い。ま。内。へ。穿。く。わ。り。が。務。よ。で。さ。さ。い。ま。あ。う。い
 五まり。う。子。そんる。う。金。ぶ。う。ま。り。も。泊。て。お。出。る。の。う。金。ぶ。う。か
 ま。入。の。乳。母。と。ま。へ。か。と。あ。り。よ。ト。い。さ。ま。あ。げ。ま。い。合。け。い。坊。お。を。ち。や。ん
 と。ま。ね。れ。り。あ。の。あ。へ。か。と。あ。り。よ。ト。お。あ。う。あ。う。う。い。さ。よ。だ。て。ろ。あ。う。る
 あ。ん。と。い。い。ち。や。そんる。う。ぶ。う。か。と。あ。い。く。し。て。お。と。あ。り。ま。お。を。ア。の。い。い
 工。さ。よ。く。ま。い。い。い。ま。さ。や。り。て。ま。わ。る。で。い。ま。い。よ。ア。ノ。内。ふ。乗。る。ゆ。う。い
 か。ら。の。と。の。か。た。さん。が。泊。て。い。さ。う。い。い。よ。お。あ。る。い。う。可。も。ぐ。う。く
 う。い。い。

花巻巻八

十

くまのてらうんくまきふあま油あぶららうとおとやしあままあまて。ああまんあまぐあまるあまくあまつあまこ
まあまりあままあまきあま 一あまそあままあまどあまらあまうあままあままあまそあまふあますあまるあまのあまのあま人あまえあまああまのあましあまとあまきあまる
こあままあまもあま 是あま相あまとあまくあまもあまはあまはあままあまるあま。うあまらあまらあまにあまもあまああまけるあまのあまがあま。は
子のあまやあまらあまみあまふあまてあまめあまるあま。すあまきあまらあまうあまふあまにあまああまりあままあません 一あま坊あまを
まあまてあまふあまはあま合あませあまめあまのあまどあまよあま。らあまんあまるあまをあま度あまいあま処あまへあま油あまとあまうあままあまいあまてあま度あまきあま
よりあまああまやあまりあまものあまこのあま。ちあまてあまアあまノあま坊あまわあま。かあまつあまアあまがあまああまるあまくあまらあまつあまても
らあまわあまてあまはあまのあまであまらあままあまいあままあまはあまのあままあまきあままあまどあまよあま。かあまたあまえあまんあまのあま処あまみあまら
ああままあまぐあまえあまとあまああまりあままあままあまらあまうあま。わあまとあまうあまらあまくあましあまてあまかあまはあまよあま一あまアあまノあま坊あまわあまと

みあまちあまくあままあまああまがあま。ああまらあまうあまちあまわあまんあまどあまこあまイあまかあま物あまぞ 一あまかあまつあまうあままあまんあまのあまアあまノあま門あまダ
とあまふあま 久あま
まあまをあまうあまらあまうあまへあますあまらあまうあままあまいとあま。かあまらあまんあままあまああまらあまうあままあまるあまよあま。 一あましあまつあまうあままあまんあまのあまアあまノあま門あまダ
かあまらあまんあままあま 是あまがあまなあま残あまりあまのあまちあまよあまとあま。いあまらあまねあまどあま物あまみあませあまきあまああまらあまくあま。 一あましあまつあまうあままあまんあまのあまアあまノあま門あまダ
目あま不あま淺あま 是あまらあまうあまへあまてあままあまもあまらあまうあまらあまうあまらあま。 一あましあまつあまうあままあまんあまのあまアあまノあま門あまダ
こあままあま 一あまこあままあまとあまのあまああまのあまいあまのあま何あまとあまいあまつあまてもあまをあま我あま者あま中あま。後あまはあままあまらあまうあままあまらあまうあまらあま。 一あましあまつあまうあままあまんあまのあまアあまノあま門あまダ
まあまのあま相あま入あまトあま下あまへあまああまらあま 一あましあまつあまうあままあまんあまのあまアあまノあま門あまダ
まあまのあまもあま 一あましあまつあまうあままあまんあまのあまアあまノあま門あまダ
まあまのあまもあま 一あましあまつあまうあままあまんあまのあまアあまノあま門あまダ

とせまは

のつて落月ぬく。今秋ハ雨つて明日の朝もゆく。

 ともさへみぬ。のうをア「さあうさ。旦那さして」

 のる。はたかちまーやまー。か旅さもあり。

 是非今秋ハかとも入るさ。まー。

 うふらぬへあること。旦那かかちまーやまー。

 どもも海ぬいよ。とさこ是非かちまーやまー。

 あるう。三松どんでもか借りや。あつともたぬく。

 「さあうさ。さあうさ。えもか。さあうさ。よ。

ちうのちハか。いーや。ま。ま。ま。ま。

 又明日。い。ま。あ。り。や。ま。う。ね。ん。か。坊。え。

 く。い。ま。ま。の。外。ハ。泥。よう。よ。う。

 まう。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。

 せう。話。と。乳。母。か。と。あ。り。と。極。て。あ。つ。う。は。え。ん。ふ。ハ。三。松。久。助。を。有。

 て。と。あ。り。と。ま。ま。で。ハ。業。考。る。ゆ。も。あ。る。ま。い。

 と。ふ。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。

 中。小。の。大。家。と。合。の。か。ふ。不。成。の。こ。と。を。さ。あ。う。さ。う。

三

可憐なり。あはれ居候はんよう。由居界でもござりませうぞ。
ま

金がうへゆをかねがひやしませ。たてアせんあしこのんま令
がうやあつうアムモウ初うう。おと申くして様はんよくかたびヨ
あましくござりませうよト

あましくござりませうよト
いふまじいこと出まを 輪屋の伴ひひらさ

まてそれな残のやせめく。はあ雲も乳母とりあしともふ金のか
のみとひまのりまを別まを借く送る身より送る身より

この世ううううま真途の旗の空へ流ゆあめのと飛りしも
さまじくまを法のたを授る身あまは侍のまは身の姉ふ

守まをさせてうまつるあめとありあつては目ふ海男もま
まのぶ親あまの雛小別まぬいあまぬれも絶くあるま残のま

常の風小はま来て身をつらぬく入相ふおどろくままてれ
まをみるあま公弱くてあまのりと別まてらまの飼りける。さる

稚小金丑糸ハ今ね小ま小別ま付常小かわりて名残があ
まをぬるあまのつらかりしうま主人持身の侍あまねばまを契

りて別ましうまそのまへ残の番小あまなりてあまらまえま
ざるあまかまらまもとまめいと。案トまびても後方ま。あま

ざるあまかまらまもとまめいと。案トまびても後方ま。あま

ざるあまかまらまもとまめいと。案トまびても後方ま。あま

ざるあまかまらまもとまめいと。案トまびても後方ま。あま

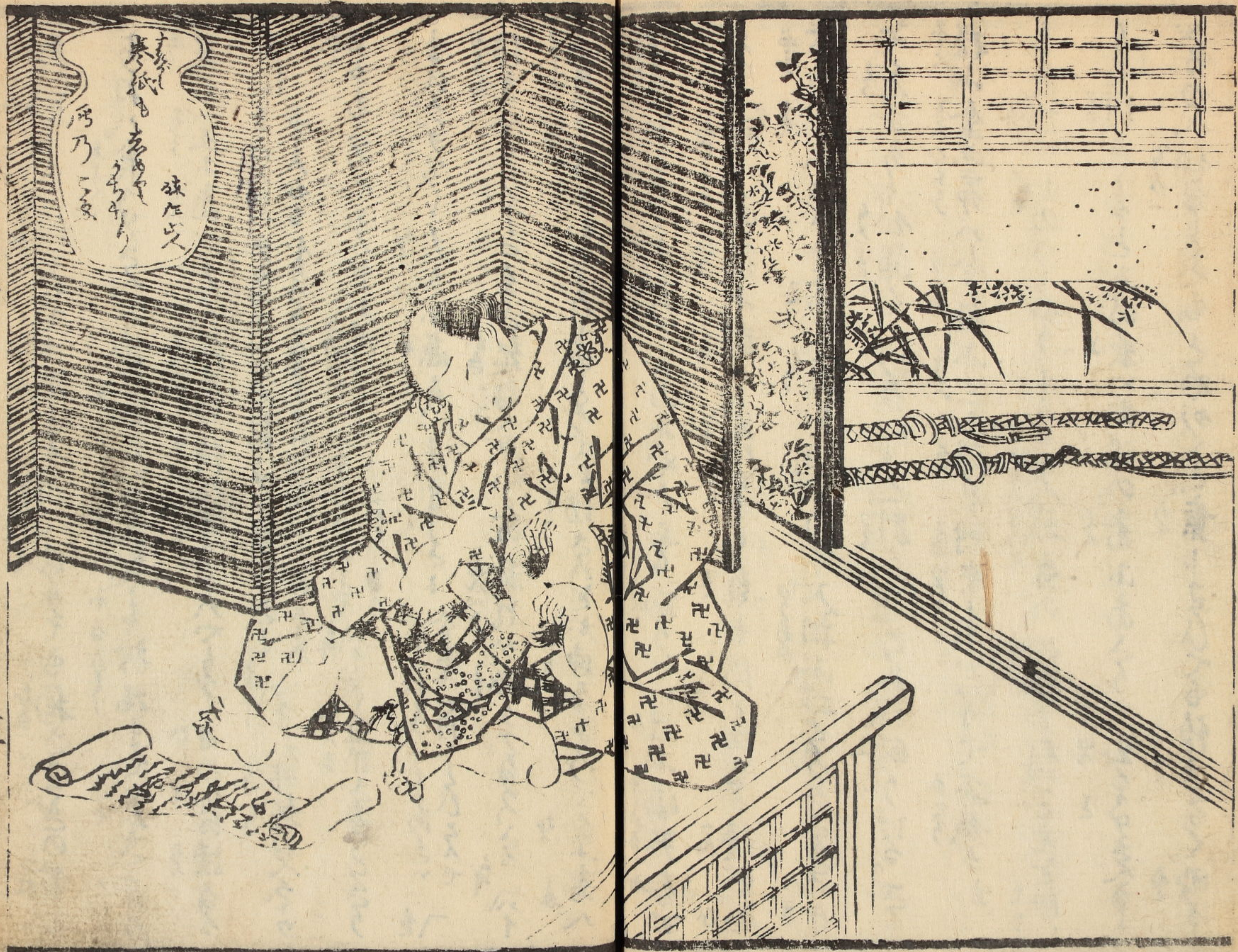
ざるあまかまらまもとまめいと。案トまびても後方ま。あま

ざるあまかまらまもとまめいと。案トまびても後方ま。あま

ざるあまかまらまもとまめいと。案トまびても後方ま。あま

ざるあまかまらまもとまめいと。案トまびても後方ま。あま

ざるあまかまらまもとまめいと。案トまびても後方ま。あま



其紙も
乃乃
破乃
破乃

家
子
月
八

十五

八
月
八

十五

假名文章娘節用三編下之卷

江戸 三文會自樂補述

第九回

朝夕ふあきの藤系を雨と見つ。冬をバ長る寂しきふ心も
空も雨雨月。訪ふ人もるき草の麻へかきまひ来てま焼ハ
ふ心ふあうぬ子雀の。あきよをよと啼声をゆふつげても
あきそ。一りんこまん。さきま。とま。ま
表ま流ふ紫雲ハ小三の凶後を。吊りふひまふ令の介を。
るぐさあてもまごまごけの。泣てハ母を尋ぬる由急不使の

はさるづ。うとうとるまんこまハ小こどの、姉子あねことのよこを**あま**といふ

をさしまさる。ふくまは孫りまおひまさる。さうくま得まねてまあら

うあふさうま食まむおま客まはまさるまうまねまうまト

ひんまさんまハま「ままはまくまくまはまさるまうまとまぞんましまうまくまくま。金ま入ま希まさんまのま

お祖ま又まさんま。よまふまマまアまおま出まあまをまさまくまト。何まおまはまさまをまままるまおまハまをま

もませんまうま。何まるまうまともまかまかまさまるまくま。おまもまらましまるまらまうまくまトま

しまうまらまうまらまんまト

姉妹あねまといまひまるまうま。小まこまどまのま小ま生まらまうま。おまままのま教まをまままるまおまつまけま

涙なみだがモウまきまでまうまやまトまわま。おま竹まくまくま中まままうまやま。おまのまらまちまがまとまらま

おまでま。前ま後まままるまのまおまのま病ま。近ま屋まるまうまトまをまらまうま。おまもまままをまままでまつまてま

くまこまままらま。おまのま子ま細まとまのまおまはまうまトまわまつまとまをまらまうま。不ま思まはまるま縁までま

令ま北ま希まとま小まこまどまのまとま決まらまうま。おまがまひまおまあまひまのまおまとまままとままま

決ま切まづまくまがま苦ま勞まのまとまねま。大ま藥まおま惚ま食まてまわまるまうま。おまのまおまのまおまのまおまのま

世よのま美ま理まおまのまおまのまおまのまおまのまおまのまおまのまおまのまおまのまおまのまおまのま

ゆまらま不まめまらまままでまらまうま。孫まもまおまのま情まおまままよまふまうま。らまちまをまおまのま

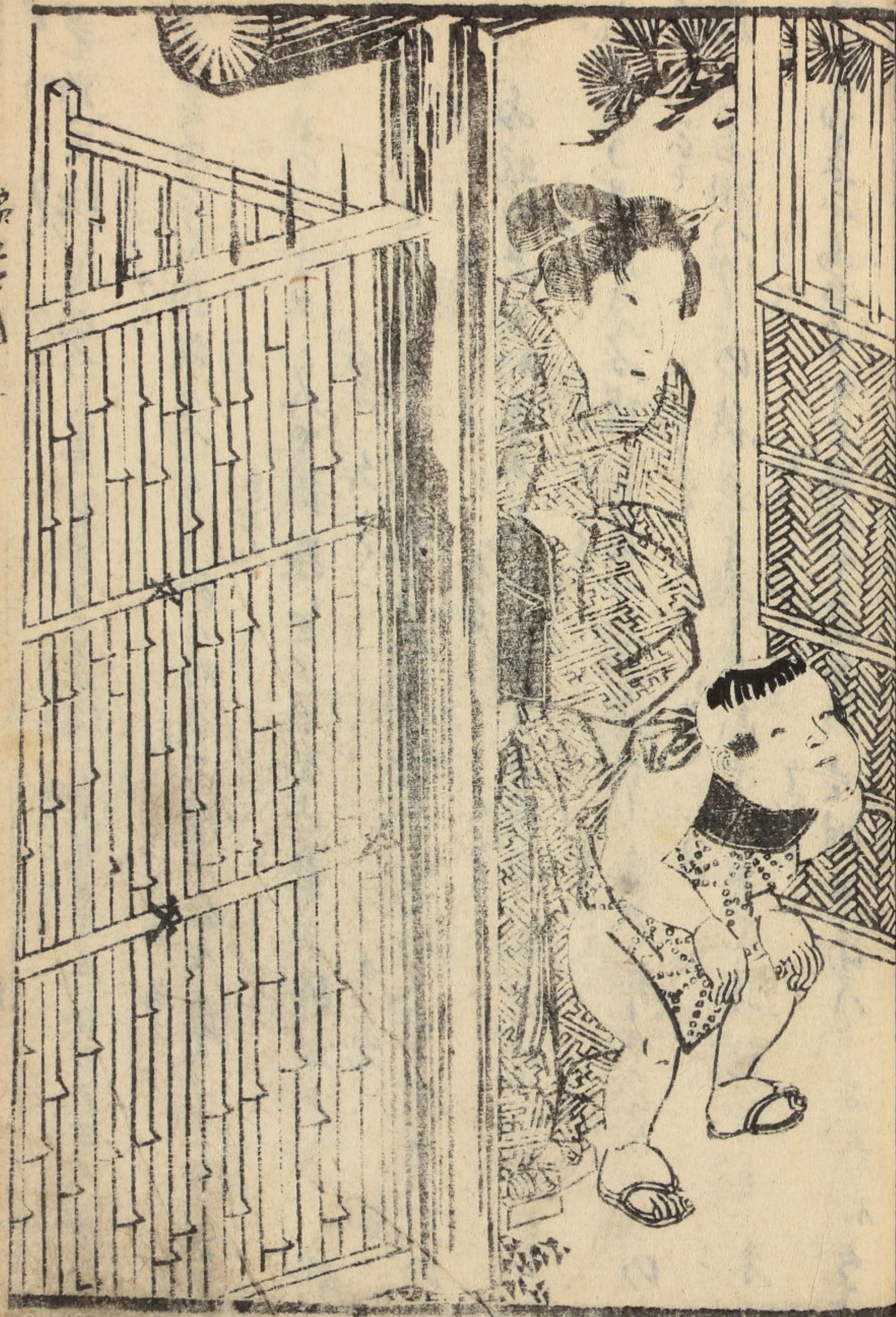
衆まもまらまらまらまうま。一まつまづま。年まハまとまままとまもま。放ま持まがまあまらまぬまおま。始ま終まのま

涙をぬぐ

お

つらうが業ト^{あえ}りて。美見^{いん}ハ^いても棟^{むす}小^こ灯^{とう}。夏^{なつ}磨^ま小^こあま
 ぐひま^まうぬ^うが候^まよと。捨^すて^て是^こても乃^なふる^らび^はみ^もお^もを^とう^く
 と^か磨^まる^けと^ば。捨^すて^て切^きとぬ^る理^り。その^ま精^{せい}を^おた^とふ^らる^る者^{もの}の
 世^よの^あ今^{いま}世^よで^は。こ^もも切^きまる^ると^での^まいと。推^おを^して^して^見る
 所^{ところ}。つ^らう^あら^との^ま荒^あれ^ぬ不^ふけ^も切^きら^ねら^るぬ^は。浮^う世^よの^あ理^り
 小^こ雪^{ゆき}と^いふ^は。珠^{たま}娘^{むすめ}と^いは^れ。祝^{いわ}言^げと^もさ^せら^う。と^もも^はれ^のま^はね^の縁^{えん}と
 あ^まふ^この^まお^お孫^{まご}め^の不^ふあ^らむ^と。て^らい^らで^るあ^らむ^この^まあ^らむ^この^まあ^らむ^こ
 と^らね^ぬき^を。ち^とめて^るま^まふ^この^まその^ま序^じで^は。う^らう^らと^もお^おせ^るせ^るに^ま孫^{まご}め^が

糸^{いと}の^まう^らん^ぐう^くの^ま伏^ふあ^らむ^まは^らむ^この^まへ^のり^らぬ^るど^もの^まあ^らむ^こ
 あ^らう^らが^まあ^らむ^こが^あら^う。ど^うぞ^も保^た切^きて^るま^まふ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^ま
 い^のの^まこ^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^こ
 あ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^こ
 あ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^こ
 と^あら^むこ^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^こ
 り^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^こ
 り^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^こ
 と^あら^むこ^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^こ
 と^あら^むこ^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^この^まお^お孫^{まご}め^のま^まあ^らむ^こ



娘の部屋



お松
お松の部屋
お松の部屋
お松の部屋

お松の部屋

三

梳^ともはてらるる^うわちや^るのい。ママも^もま^まの左^ともお^おと孫^{まご}め^せが^せ併^せんど^と小
 おろ^ろ。ち^ちよろ^ろと^おきこ^いの^おき^のて^とう^ささ^さき^と「^おん^ふさ^のう^ので^い
 ばい^いま^しこ^の子^を。金^をわり^んの^おま^ふか^の出^る工^の乳^を母^の一^つ寸^を速^でか^の出^た
 った^らそ^のう^で金^のの^かん^の金^を。か^をち^をち^をち^をん^の坊^をか^らち^をち^をん^のか^の出^たど^をあり
 した^ら。余^のお^のか^のち^をち^をん^のご^の子^を「^おは^いい^のう^の。よ^のそ^のか^の祖^の父^をま^んで^い
 みの^日。是^の坊^のヤ^のか^の祖^の父^をま^んで^いう^の子^をを^つい^てか^の辞^を後^をか^の一^よ
 「^おれ^にく^わと^のう^のい^のふ^のい^のど^らく^の社^の父^のの^御へ^の来^をや^とう^よく
 の^おと^とま^さく^ぞそ^んる^うか^のお^のお^の産^をを^りま^まよ^のサ^ア〜^のみ^を
 せ^いや^とま^の下^を来^をゆ^のや^とま^の金^を「^おち^をち^をち^をん^のこ^のし^のか^の葉^をふ^かの^祖父^をち^をち^をん^の
 かの^いど^のお^のお^の産^をり^のい^のま^のら^のめ^の「^おヤ^のよ^のか^の葉^を子^をを^のか^のら^のい^のき^を
 どの^よく^のお^のお^の産^をふ^かの^れと^のち^のう^のど^のよ^のか^の祖^の父^をま^んで^いを^の持^て坊^のハ^社
 合^のせ^のの^いど^のを^の「^お〜^のヤ^のの^坊ヤ^をを^るあ^つけ^のも^のド^めて^の産^のつ^のこ
 う^のを^さ入^の丁^の愛^のら^うて^のあ^のい^のの^いら^の疾^の源^をく^の矣^をを^一〜^のく^のぬ
 全^の五^の希^のめ^のう^のあ^のぬ^もの^た理^のら^ま〜^のて^のふ^のこ^のどの^のい^の女^のの^いの^まア
 の^いけ^のる^のふ^をを^産て^の他^のも^ある^もも^のせ^のぬ^の申^のぐ^の男^のの^一男^とと

おー^のま^まま^の身^を〜^のが^よう^の出^を来^をま^のも^のヤ^のら^く〜^の丁^の巻^のの^能ま^のど^わ
 ナ^アト^のよう^のく^の下^を来^をゆ^のや^とま^の金^を「^おち^をち^をち^をん^のこ^のし^のか^の葉^をふ^かの^祖父^をち^をち^をん^の
 か^のい^どの^おの^おの^産り^のい^のま^のら^のめ^の「^おヤ^のよ^のか^の葉^を子^をを^のか^のら^のい^のき^を
 どの^よく^のお^のお^の産^をふ^かの^れと^のち^のう^のど^のよ^のか^の祖^の父^をま^んで^いを^の持^て坊^のハ^社
 合^のせ^のの^いど^のを^の「^お〜^のヤ^のの^坊ヤ^をを^るあ^つけ^のも^のド^めて^の産^のつ^のこ
 う^のを^さ入^の丁^の愛^のら^うて^のあ^のい^のの^いら^の疾^の源^をく^の矣^をを^一〜^のく^のぬ
 全^の五^の希^のめ^のう^のあ^のぬ^もの^た理^のら^ま〜^のて^のふ^のこ^のどの^のい^の女^のの^いの^まア
 の^いけ^のる^のふ^をを^産て^の他^のも^ある^もも^のせ^のぬ^の申^のぐ^の男^のの^一男^とと

金五郎不承り... 二世とちびどりてあつくる。つひふ子
どものお出来... 又その男もふ
らる。まるふおまをささごらの列座不承り... 役りの人ふあひく
つらうて。頼小仏門の志願あつる。髪を剪り冠とありつ。世を
のびて... 浮世の道理不承り...
浮る多うぬを覚悟して心よく自分と承せり... 己の男のふと
ふし操をさめぬ... 天晴貞女... 下さごらの不
承りと... せと... せと... せと...

ゆき... 姉妹操のふと... 貞婦とのふら
か... 親小ふの初の時... 金五郎と一處不承り... 家出
しく死なせと... 義母のふと... 金五郎のふと... 金五郎のふと...
あ... ひとり... ひとり... ひとり... ひとり...
かの中と。金五郎が物の中が。不承り... ひとり... ひとり...
るげく... ひとり... ひとり... ひとり... ひとり...
ら... ひとり... ひとり... ひとり... ひとり...
と... ひとり... ひとり... ひとり... ひとり...
ま... ひとり... ひとり... ひとり... ひとり...



とよく終り。か聖母もりりとも小目を泣き流さくして顔え
ありせ。あざと袖をか「アヤシクとりぬい糸を喰く見ても
あま、よもかみ。志狗がせまうて。大さう小泪をこりりし
金五郎の迷ひーも。なる柴美人ごと。か祖又さんさん小
こが容身と。あもあもるるやどみ生まへと。容身の格別な
夏どろ。むぞとのひらの手蹟を。うりうりいともえりとも
やくそくで。約束するといふの、うら死をとるゆゑ。人小まぐとく
生きて来ての。金五郎のしあををひ。お主人は美理と

えをいして糸を汚さない貞女の 澄ん小か聖やめりしむ仇
おるひるええな。この書かきへお主人のあふ。実おのよ
ど甲のゆう小金五郎を又夏おして。たをさうが女のこ
るる。金五郎も藤果あしてハもるるのヨ。「おん小きあうで
ひざひまん。こころがうるるこふ。うく元のつくやうなけとる。
このやうなるゆあへのりまきまの。因果なる夏でぶふい
とト。あまふ二人がうたにまき。あまご小袖を「兼旦那さまのお席」
ト。つづろ小母の。お聖のしをやく。あをまきうひ。泣が不かくし

出迎へば金をうち「お聖どうぞ」とのう。田舎のご新つきどろり

大きき形のをして。又おろさんおあつとまこの「お正せん

度でもひびきの中せんぐトあまのひうたアノ金ぶうへどない

まうと王金「おまアと先へ参入れとトまののせきう人アヤレ

とびきとど。らんお聖々への。寺あつととととととととととととと

れらうはお聖々へのお傳言があつととととととととととととと

ちろと泊りおげおあいとヨいへとおお聖いうらむいてハイとつと

どうもおまハおめ入の中らまがうらうらねんが竹とせんあふま

のごろり。アきとえとらア竹どの。おまがふこの青あ

おれらうお。ととで痰かさうらうのまか煙「どういへてまあ

とんまらうが金「おあるけつわアどういふ供だ。心をあつとと

言てさるせむ。つらうとと一生深くとあふうと。隔てぬでこそ支拂とのい

めの「そのへびとのいふゆゑ、後うらととととととととととととと

「あんのるまの。とらちのせんあ見えおねあか「おの妻と

ともかくもおとさんとのゆゑうらうを「重とてとととととととと

ハイお。ととととととととととととととととととととととととと

然と成せざるまうと。あるまじき由は苦勞をわけまじかる
 のふ。一あんごち。又あひひあ。くやうふ。モウのく。つしてもある
 ま。わい。とらんも大聚あやめてらん。一まう。くやうとく
 ござのまじか。行あつけ被あつけ。常々。とらてくもやく。え
 み。ご。く。う。が。あ。う。う。の。あ。ご。ご。ご。の。身。を。ね。ん。で。あ。う。ま。ひ。が。ご。ご
 名。ご。け。り。り。も。より。一。百。ヶ。日。づ。け。む。お。う。り。う。一。又。と。ん。ま。ご
 なるり。か。教。ひ。が。晴。ま。せ。ぬ。り。う。中。し。ま。ぬ。り。う。か。被。せ。か。ま。あ。そ
 なるまそなる。ア。ある。この。お。る。す。の。う。ち。か。烟。草。盆。の。引。物。
金 何れも 金 何れも 金 何れも 金 何れも 金 何れも 金 何れも 金 何れも 金 何れも 金 何れも

ぬ。よ。ご。ま。ん。の。遺。書。が。出。ま。う。と。ゆ。あ。つ。い。ち。う。う。と。一。ん。ご。
 の。で。気。き。お。ま。う。う。と。ま。う。一。ん。が。あ。ら。う。な。ご。ご。ご。で。も。先。
 う。う。深。い。深。あ。る。ま。を。あ。う。て。あ。う。う。う。う。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
 の。お。例。へ。お。ご。ま。ん。を。ほ。ま。ぬ。り。も。あ。ら。う。と。ま。う。と。ま。う。と。ま。う。と。ま。う。と。ま。う。
 一。ん。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。一。ん。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。一。ん。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。
 らぬ。深。言。ご。お。ご。の。あ。ら。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。
 ござ。う。堪。思。し。て。らん。年。も。り。う。わ。い。あ。ら。う。お。ま。あ。ら。う。う。く。苦。勞。
 さ。む。ご。あ。も。え。ん。の。周。縁。約。束。も。あ。ら。う。入。り。り。お。ま。あ。ら。う。お。ま。あ。ら。う。

如來年九

金きんむらとすうらきぶつてやつてええみ。竹たけざうじじくく替かせああこ
 かか雪ゆきああ人ひといい子こぶぶらら。茶ちや碗わんおお一いつ盃はい酒しゆをを持もてて来きててええみみ。その
 ううちちちちううららりりああくくけけてて。ごごんんのの機き軸じくととななてて来きややりりト
 ええあありりせせひひららりりああくくかか雪ゆきのの油あぶらをを
 婿むこ月つきててああてて好このみみねねづづららみみををししててああららせせ「ささややううででごごんんままんん主しゅ
 かか祖ぢい又またさんさんああののおお合あひひででごごんんままんん。ハイはいああららるるはは酒しゆををトト見見
 ととごごんんののせせ金きん一いつラらツつトトままごごらら一いつはは昔むかし勞らうどどううトトみみああららりりああげげてていいきき
 せせいいののごごせせがが「ヲやああららるるここららああららののらららら煖あたたかめめててままままババトトふふごごいいらら
 びびううここりりヲやああららるるここららああららののらららら煖あたたかめめててままままババトトふふごごいいらら

ままごご子し五ご「おおアアああ冷ひやでももいい。是こゝででははちちききりりくくああららるるごごううどど。「おおんん小せう
 そのそのららののももああのの去き垂たふふいいつつそそ案あんどどててままててままままららるる旨あじ「そそををああららけ
 ののうう。いいつつでももららののふふのの春はるででハハ小こととふふひひごごららくくれれととももああららるるががアア今いま
 又またハハ是こゝもも後のち悔くは。モもウウくくああららりり止とめめららるる。人ひとハハ小こととももああららるるがが
 其そののの長なが知ち織ぢでももああららるるごごううららトト行いららるるつつけてて男おとこののかかととるるひひををああららるる
 ああららるるとと賢けん是こゝよりより一いつくく金きん五ご糸いとハハ鳥とり飛とべべへへ忠ちゆう勤きんををああららるるごごうう。白しろ翁おきな
 初はつめめああららるる。孝かうととははままををとと日ひふふすす一いつ張はりくくかか雪ゆきとともも中ちゆう睦ぼくままううくく
 一いつ七しち。金きんののおおををとと養やしやう育いくすす。はは雪ゆきののたたりりももはは木きおおくくふふ。坊ぼくひひああららるる

長門
 一七

信て味をせむ。忠孝信義全き由表ふ。赤門不承順の奉をひこ。
 か雪の積もも子を融けて。幾千系代継りく。量産富栄うえ
 ける。のる目かへる。固ふよらて。金五弟分実の脱。文の悪もひま
 の。幼らむごらの附先まきこく。六。東師の成ふ者子を命。その男ハ
 赤み赤みへ下り。祝法券傳ふ對面して。春去中ふ小乙の男の果
 少て悲歎の泪ふら。煩ふを常を脱するもの。終ふ登り新
 仏門ふ入りて。男を雲氷小まを。法ふ形跡ふ出く。とるん。

假名文章娘節用三編下之巻大尾

